12

書く

知識・技能

適切な表現で書く（語句の働き）

名前

解答

◆適切な表現で書くために知っておきたいこと

多義語…一つの語が関連する二つ以上の意味をもつ言葉。
類義語・対義語
〇類義語…互いに意味がよく似ている言葉。
〇対義語…互いに対になる意味をもつ言葉。
ことわざ…昔から人々に言い伝えられてきた、人生の教訓や物事の道理などを短く言い表した言葉。
慣用句…二つ以上の語句がひとまとまりで使われ、特別な意味を表すようになった言葉。
故事成語…昔あった出来事や言い伝え（故事）がもとになってできた、特別な意味を表す言葉。
※この他にも、呼応の副詞や助詞の使い方に気を付けると適切な表現で文章を書くことができます。
呼応の副詞…あとに決まった言い方がきて、話し手の気持ちや態度を表す言葉。

身に付けると…

その語句が文脈の中でどのような意味で使われているかを理解した上で、適切な表現で書くことができるようになります。

やってみよう〔解答と解説〕

一
（1）①ア　②イ　③ウ　④エ
（2）①ア　②エ　③ウ　④イ
（3）①イ　②ウ　③エ　④ア

【足】 足がある（脚力） 足がない（移動手段） 机の足（支える部分）	**【口】** びんの口（入れるところ） 口がうまい（おしゃべり） 糸口（端の部分、きっかけ、手がかり）	**【つく】** 荷物がつく（到着する） 席につく（座る） 足がつく（触れる）

二
（1）イ　（2）ア　（3）エ　（4）ウ　（5）オ

〔**呼応の副詞**の用例〕
・こんなことはめったにない。
・たぶん明日は雨だろう。
・どうかこの質問に答えてください。
・なぜ昨日は欠席したのか。
・まるで海のように深い。

三
（1）なぜなら
※ A のあとに続く文の文末表現は、「〜からだ。」になっています。この文末表現に合わせて、理由や説明の意味をもつ接続詞「なぜなら」を補います。

（2）おそらく最後までスケッチを完成させることはできなかっただろう。
※呼応の副詞「おそらく」に合うように、文末表現は推量の意味をもつ言葉に直します。また他の部分の文体に合わせて、敬体を常体に書きかえます。